

えたり。又云、若人^ク不信^{シテ}毀^セ謗^{セハ}此經^ヲ、則斷^{セン}一切世間佛種^ヲ、乃至其人命終^ニ入^ル阿鼻獄^ニと云。此文の心は、若人此經を信ぜずして此經に^②そむかば、則一切世間の佛のたねをたつもの也。その人は命を^①はらはば無間地獄に入^ルべしと説給^キへり。此等の文をうけて天台は、將非魔作佛の詞^{コトハ}正^{シク}此文^ニによれりと判^ズ給^{ヘリ}。唯人師の釋計^ヲを憑^シて、佛説によらずば何ぞ佛法と云名^ヲを付^スべきや。言語道斷の次第也。依^テ之^ニ智證大師は經に大小なく理に偏圓なしと云て、一切人によらば佛説無用也と釋し給^{ヘリ}。天台は若深^ク有^ニ所以^ニ復與修多羅合^{セルヲ}者^ハ錄^{シテ}而用^ユ之^ニ。無文無義不可^ニ信受^スと判^ズ給^{ヘリ}。又云、無^{キハ}文證者悉是邪謂とも云へり。いかか^ニ心得^{ベキ}や。問云、人師の釋はさも候べし。爾前の諸經に、此經第一とも説、諸經の王とも宣^スたり。若爾者佛説なりとも用^ユべからず候^④如何。答云、設^ヒ此經第一とも諸經の王とも申^シ候へ、皆是權教也。其語によるべからず。依^テ之^ニ佛は了義經によりて不了義經によらざれと説き、妙樂大師は縱有^テ經云^ニ諸經之王不^レ云^ハ已今當説最爲第一兼但對帶其義可知^シと釋し給^{ヘリ}。此釋の心は、設ひ經ありて諸經の王とは云とも、前に説つる經にも後に説んずる經にも此經はまさされりと云はずば、方便の經としれと云釋也。されば爾前の經の習として、今説く經より

①〔乃至〕一② ②にそむかば=を謗せば③ ③たつもの也=煮り失へる者也④ ④は命をはらはば=命終後⑤ ⑤〔此文…給へり〕12字一⑥ ⑥歎+(いぶかし々々)⑦